【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和6年4月4日(2024.4.4)

【国際公開番号】WO2023/281976
【出願番号】特願2023-533479(P2023-533479)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　6/38(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　6/02(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　6/024(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　6/38
Ｇ０２Ｂ　6/02　４６１
Ｇ０２Ｂ　6/024

【手続補正書】
【提出日】令和5年12月19日(2023.12.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
図１の最下段に示された光コネクタ１０の正面図（コネクタ正面（ＰＭＦ適用例））には、調芯が必要な光ファイバ５０としてのＰＭＦ５０Ｂの端面、該ＰＭＦ５０Ｂの先端部分（ガラスファイバ５１Ｂ）に取り付けられフェルール１１０、フェルール１１０が差し込まれたスリーブ１２０、およびフランジ１３０が示されている。ＰＭＦ５０Ｂは、ファイバ軸ＡＸ（ＰＭＦ５０Ｂの中心軸）に沿って伸びるコア５２Ｂと、コア５２Ｂを挟むように配置された応力付与部５４と、これらコア５２Ｂおよび応力付与部５４をそれぞれ取り囲む共通クラッド５３Ｂと、を備える。調芯後のＰＭＦ５０Ｂを含むフェルールアセンブリ１００では、基準方位を示す線$Ｌ_{A}$と設置基準線$Ｌ_{R}$は平行になっている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
さらに、図５の下段に示された「再位置決め」において、比較例のフェルールアセンブリの場合、ばね材１４０が矢印Ｓ２で示された方向に再度伸びると、ばね材１４０は、フランジ１３０のへり１３５を位置決め部２０Ａ、２０Ｂに押し当てる。このとき、ばね材１４０が縮んだ際にフランジ１３０とスリーブ２００の相対的な位置関係が変動したため、比較例では、フェルールアセンブリが再位置決めされた際、フェルール１１０の端面位置が光ファイバ５０のファイバ軸方向に沿ってずれることになってしまう。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
これに対し、本実施形態のフェルールアセンブリの場合、ばね材１４０が矢印Ｓ２で示

された方向に再度伸びると、ばね材１４０は、突起部１２１を介してフランジ１３０のへり１３５を位置決め部２０Ａ、２０Ｂに押し当てる。ばね材１４０が縮んだ際にフランジ１３０とスリーブ１２０の相対的な位置関係は変動していないため、これにより、フェルールアセンブリの収納位置が安定的に維持される。